

科目名	特別講義 1							年度	2025
英語科目名	Special Lecture 1							学期	前期
学科・学年	ダンスパフォーマンス科 1年次	必/選	選	時間数	15	単位数	1	種別※	講義+演習
担当教員	三山慶人		教員の実務経験	無	実務経験の職種	教員			

【科目の目的】

本講義では外部講師による講義となるため、各講師ごとに事前調査、聴講、聴講結果報告の3ユニットで実施する。聴講内容の理解がより深まり有意義なものとなるため、事前調査は必ず行い、重視する。授業時間外での主体的な予習も奨励する。学生の知識定着のため、聴講しただけで終わらず、必ず聴講結果レポートも作成する。外的環境との関わりにおけるビジネススキル向上を意識し、受講マナーについても指導を行う。

【科目の概要】

学生が最新技術動向を業界のプロフェッショナルから聴講し、見識を広めることを目的とする。音楽業界とITの技術の融合など新たな知識と技術を常に新鮮な目線で学べる環境を有する事。今後必要とされる人材は、知的好奇心を持ち、興味を持った事柄についてはその深層まで探究することができる人間である。さらに、多様性が求められる昨今、学生とは異なる環境にいる人との交流を持つことが多様な価値観を持つ他者への理解につながる。本講義では学生の知的好奇心を刺激すること、他者に対する想像力、発想力を養うことができる。

【到達目標】

- A. 主体的に講義に参加し授業内発表ができる。
- B. エンタテインメント業界の知識や問題意識を学習の場に活かす視座を得る。
- C. 講義をきっかけに各自が今後の自分の指針を発見する。

【授業の注意点】

課題提出締め切り日までに課題を提出すること。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル1 要努力
到達目標 A	主体的に講義に参加し授業内発表ができる		主体的に講義に参加できる		到達目標Aについてさらなる努力が必要
到達目標 B	エンタテインメント業界の知識や問題意識を、1年生前期の学習の場に活かす視座を得る		エンタテインメント業界の知識や問題意識を、説明することができる		到達目標Bについてさらなる努力が必要
到達目標 C	講義をきっかけに各自が1年後期に向けた今後の自分の指針を発見する		講義をきっかけに各自が1年後期に向けた今後の自分について考察できる		到達目標Cについてさらなる努力が必要

【教科書】

毎回資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】

試験・課題 30% 試験と課題を総合的に評価する
 レポート 40% 授業内容の理解度を確認するために実施する
 成果発表 20% 授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する
 平常点 10% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

科目名		特別講義1			年度	2025
英語表記		Special lecture-1			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	第一課題 課題発表 課題説明	課題の趣旨を理解	1 特別講義とは	授業対象講義の意義がわかる	3	
			2 課題発表	第一課題の意義がわかる		
			3 課題理解	課題の内容を理解できる		
2	第一課題 実践	現場を想定した体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
3	実践	現場を想定した体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
4	実践	現場を想定した体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
5	実践	現場を想定した体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
6	実践	現場を想定した体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
7	まとめ	応用方法を学ぶ	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 構造化した課題の合成	分解した課題をまとめる		
			3 課題発表	第一課題をまとめ、発表する		
8	第二課題 課題発表 課題説明	課題の趣旨を理解	1 第一課題の振り返り	第一課題について振り返りができる	3	
			2 課題発表	第二課題の意義がわかる		
			3 課題理解	課題の内容を理解できる		
9	実践	現場を想定した体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
10	実践	現場を想定した体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
11	実践	現場を想定した体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
12	実践	現場を想定した体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
13	実践	現場を想定した体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
14	まとめ	応用方法を学ぶ	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 構造化した課題の合成	分解した課題をまとめる		
			3 課題発表	第二課題をまとめ、発表する		
15	総合復習	復習の実践	1 第一課題の振り返り	第一課題を自分のものにできる	3	
			2 第二課題の振り返り	第二課題を自分のものにできる		
			3 特別講義の可能性	授業対象技術を取得することへの可能性を知る		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等